

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 10 月 5 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700038		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	ほのぼの苑廿日市東		
所在地	〒738-0005 広島県廿日市市桜尾本町3番21号 (電話) 0829-34-3800		
自己評価作成日	平成28年8月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3492700038-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年9月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中、地域の方と御家族との協力も頂きながら、お一人おひとりの心に寄り添う介護を心掛けています。食材の購入から調理まで苑で行い、1日3食、暖かい食事の提供に努めています。3階の花壇では花や野菜と一緒に育て、スイカ等つぼみから収穫までを楽しみながら見守り、食卓に色を添えています。近くのスーパーへの買物など、生活の中でリハビリを兼ねた支援に取り組み、楽しみにつなげています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成19年に設立された当ホームは、廿日市天満宮をはじめ、西国街道ゆかりの由緒ある社寺に囲まれ、おだやかな風情の環境にある。花見やお祭り、町内行事などに参加することで、地域の人たちと自然なかたちで関わり、うるおいのある暮らし方を共に考え、その人らしく笑顔で過ごしていただけるよう、一人ひとりの思いに寄り添うケアに取り組んでいる。また、利用者の楽しみのひとつである食事内容にも配慮して、時にはベランダで一緒に育てた旬の野菜などが一品として彩りを添えたり、調理の手作業を利用者が手伝いながら、職員による三食共に手作りでの食事を提供している。ボランティアの受け入れや、夏祭りにはゆかた姿での盆踊り・スイカ割りなど、職員の提案を取り入れながら、様々な苑内行事を通じ、アクティビティ豊かな支援に努めている事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員全員で考えた理念を、毎朝の申し送りで唱和し、実践している。	「一人ひとりの心に寄りそうケア」を信条に、グループホーム独自の理念を掲げ、毎朝、職員で唱和し、理念を共有している。日常のケアの中で、さりげなく理念を取り入れ、実践につなげている。皆で楽しく穏やかな生活が送れるよう、理念に立ち返りながら支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、公民館や保育園行事への参加や、老人会（長生会）との交流がある。また、職員の出勤退勤時、利用者様との散歩時には、地域の方々と挨拶を交わしながら、馴染みの関係を作っている。	地域の老人会に加入していた利用者が、町内の敬老会に招かれたり、近隣の保育所から、特別に日を設けて運動会へ招待されたり、心のこもったふれあいが継続している。散歩などで、日頃から顔見知りの関係を築き、地域の一員として交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	昨年10月、今年6月には介護相談会、施設見学会について、新聞によるチラシ配布や苑の前の掲示により、地域にお知らせし、質問や相談に応じた。随時対応もしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見を見をサービス向上に活かしている。	市、町内会、民生委員、ご家族様に参加して頂き、現状報告を行なっている。また、講師に来て頂き、「栄養指導」等の研修を行なっている。頂いたご意見、研修の内容は、朝礼時や会議にて伝達し、サービス向上に繋げている。	二か月毎に開催される当会議には、地域代表者も含め、多方面からの参加があり、医療関係者や消防署員などを講師とした勉強会を兼ね備え、家族などが参加しやすいテーマづくりに努めている。今後は、さらにその内容の幅を広げて、より分かりやすく意見交換ができる場となるよう、充実を図っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護保険に関する情報を市からメールで頂いたり、地域包括支援センターと利用の件で情報交換するなど、連携を図っている。また、月1回、介護相談員に来て頂き、利用者の声を行政に届けている。	運営推進会議への参加をはじめ、日頃から行政との情報交換や相談を行い、連携している。地域包括支援センターから研修の通知が届き、それに参加したり、密な関係を築いている。今後は、グループホームからのより積極的な関わりを目指している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関は安全を優先し、基本的には施錠しているが、希望があればいつでも開錠している。身体拘束マニュアルを作成し、勉強会を行い、拘束をしないケアを徹底している。</p>	<p>定期的に研修を行い、マニュアルを作成し、身体拘束をしないケアを徹底している。フットコール使用者もいるが、同意書を取り、適切に支援している。「虐待の芽チェックリスト」に各々が記入し、見つめ直し、意識を高めるような仕組みを設けている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止マニュアルを作成し、職員間で共有している。また、定期的に「虐待の芽チェックリスト」に記入し、自己評価をすることで、虐待防止に対する意識を高めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修会の伝達報告で、情報を共有している。法人内の専門職に助言をもらい、活用できる協力体制を構築している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、管理者、計画作成担当者が出席し、口頭と文書で時間をかけて説明している。利用前でも後日でも、随時、質問が受けられる体制にしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や面会時に、ご意見や要望を頂戴し、日々の運営に反映している。</p>	<p>主に、面会時などに意向・要望を伺い、ケアに活かしている。不穏な利用者に、対応を家族とこまめに相談しながら支援を続けた結果、状態が改善されたり、排便に関する課題を、主治医やナースと共に解決したり、家族からの率直な意見や要望に対して柔軟に応じ、個別ケアに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月、代表者の出席の上、スタッフ会議を行い、意見交換を行なっている。</p>	<p>近年、職員が積極的に発案し、苑内行事にも関わるようになり、スタッフ会議での意見集約がケアに活かされている。また職員のストレスケアにも配慮がなされ、全員でより良いケアを目指し、スタッフ意見の反映がなされている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行い、自己啓発意欲の醸成に努めたり、また、職員の疲労やストレス等の要因について理解、認識すると共に、休憩場所や休憩時間を設けて、気分転換を図っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>内部研修、外部研修を行い、職員の自発的参加を促している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>サービスの向上のため、他事業所へ見学に出向く等して、情報交換している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス開始にあたっては、事前に見学して頂いたり、事前訪問をさせて頂き、会話の中から、ご本人の思いを把握するよう努めている。利用後は特に関りを多く持ち、安心して生活できる環境作りをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前、直後も、不安な思いや要望をしっかりと聴きし、相談しやすい環境作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>状況に応じて、その時々での支援の必要性を見極め、検討している。早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>介護する側、される側という意識を持たず、共に支えあう関係作りをしている。人生の先輩として敬い、暮らしの知恵など、職員が教えて頂く場面もある。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>日頃の状態をこまめに報告し、御家族の思いや意見もお聴きしながら、同じような思いで支援する事を、心掛けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>これまでの人間関係やご近所付き合いなどを把握し、面会に来ていただいたり、電話や手紙を使用して、繋がりが継続できるよう支援している。</p>	<p>地域が馴染みの場所となっている利用者も多く、実家の郵便物を近所の人が持ってきてくれたり、利用者の家族がマンドリン演奏のボランティアに訪れたり、馴染の関係性を大切にしている。今後はボランティアリストを作成し、その幅を広げようと考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個別に話を聞いたり、利用者同士の関係がうまくいくよう、職員が間を取り持つこともある。交流が苦手の方も、職員と一緒に関わることで、孤立する状況を作らないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後でも、随時ご家族様からの相談にのっている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中から、利用者様の生活歴や好みを把握するよう努め、職員間で情報を共有している。意思疎通困難な方は、ご家族様からの情報を得ると共に、センター方式を利用し、生活全般の好みや、過去、現在の思いの違い等の把握に努めている。	身体状況やバックグラウンドなどを加味しながら、日頃から言葉、仕草、表情等で察知し、利用間もない利用者には特に関わりを多く持ち、思いや意向をくみ取っている。面会時などに、家族の意向を確かめ、今後は、更に寄り添う支援を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用前に、ご本人様やご家族様から生活歴や要望等をお聴きし、馴染みの生活が継続できるよう、環境作りをしている。また、利用前のサービス提供者より情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	身体及び生活状況の変化を職員間で話し合い、情報を共有し、意識統一を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>まず、ご本人、御家族様のニーズに沿ったケアプランを作成し、担当者会議にて看護師、介護職員も含めて再検討することで、現状に即したプラン作成に努めている。</p>	<p>日々の状況、状態を見極めながら、担当者会議で主治医の意見を入れて、本人、家族、関係者と共に協議し、計画立案している。必要時にカンファレンスを行い、日々のモニタリングをはじめ、プランが現状に即した内容になるよう、システムづくりが工夫されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の経過記録を記入し、職員間で確認している。また、「サービス計画書による介護実施及びモニタリング」に、介護職が毎日気づき等を記入することで、情報の共有や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人のニーズに合った支援が行なわれるよう、心がけている。また、ADL低下が見られる時は、医師に相談し、訪問マッサージを取り入れている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域行事に参加させて頂くとともに、買物や散歩等、地域の中で楽しみを感じて頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用時に、苑の連携医療機関について説明し、今後のかかりつけ医を決めていただいている。また、看護師による医療連携も行なわれており、適切な治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>内科は毎月、歯科は毎週訪問診療があり、看護師が2名配置され、24時間体制での対応がなされている。通院は、基本的には家族同行であるが、必要であればスタッフの付き添いも可能である。職員は出社後、手洗い、うがいを必ず行ってから業務にあたり、また感染症対策の研修を受けるなど、予防意識を高めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護師2名が交代で勤務し、ほぼ毎日、看護できる状態にある。夜勤者が、朝礼時に夜間での気づきを伝え、日中はその都度報告している。看護師は個々のかかりつけ医に相談の上、適切な看護を行なっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先と連携を図りながら、状況把握や退院の方向性について情報交換している。また、面会時には、ご本人の容態を確認しながら、早期退院に向けて話をしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>ご家族様、医師、苑での話し合いを行っている。今後の方針を決める事になっている。</p>	<p>利用時に、本人・家族などと十分に話し合い、今後の方針について同意を得ている。重度化した場合、医療ほか関係者との連携を取り、その都度、意向を確かめ、職員全員で支援する体制が整っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルを作成すると共に、利用者の病歴を把握し、急変時の対応に心掛けている。急変時に落ち着いた対応が出来るよう、スタッフ会議にて、看護師による講習も行なっている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>毎月1回、日中消防避難訓練を行い、夜間避難訓練も、毎月1回、夜勤者が行なっている。地域の防災訓練にも参加し、協力体制を整えている。</p>	<p>年2回、消防署員立ち会いのもとで、避難訓練やアドバイスを受け、苑内では職員で毎月の消防訓練を行い、消防に関する方法や避難経路などの確認をしている。日頃から近所とふれあい、利用者の様子を知っていただいたり、スタッフが町内会の防災訓練にも参加して、街ぐるみで備える体制を築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人おひとりに合った声かけを心掛けています。自己の言動を見つめなおすべく、定期的にセルフチェックシートを使って、意識向上に努めている。	日々のケアの中で、人生の先輩として敬意をはらい、言葉掛けなどで尊厳を損ねないように留意しながら、職員がお互いに見つめ直す仕組みを設けている。スタッフ会議でも、接遇研修を受けたいとの意欲的な意見が出るなど、今後は更に啓発を深めていこうとする姿勢がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃の会話の中から、ご本人の真の思いに気づくよう努め、ご本人の意思を尊重している。日々の生活は、ご本人のペースに合わせるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースを尊重し、起床、食事などの時間も個別対応している。外出、散歩等、出来る限り要望に応えられるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の好みの衣服を選んでいただいている。また、利用前に使われていた化粧品等も、自由に使って頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の希望もお聴きしながら、季節の食材を使用し、調理、配膳、片付け等、出来るところは一緒に行なっている。	日々の暮らしの中で、食事が楽しみとなるよう、職員が三食共にあたたかみのある手作りで提供している。時には、一緒に育てた家庭菜園の旬の野菜が彩りを添えたり、利用者が手作業を手伝うなど、和やかに支援している。おせち料理、花見弁当、敬老会にはちらし寿司と、バラエティに富んだ手作りメニューとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日、食事、水分摂取量を記録し、個々の状態の把握に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。また必要な方には訪問歯科医による治療、口腔ケアも行なっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表に記録することで、個々のパターンを探っている。出来る限りトイレでの排泄を促し、オムツ、パットの使用量を減らせるよう支援している。</p>	<p>排泄表を活用し、各々のパターンやタイミングを見計らって、トイレ誘導している。夏場は、特に水分補給を心掛け、自立に向けた支援をしている。筋力低下を防ぐために、廊下での歩行訓練を、音楽に合わせて楽しく続けた結果、車イスから歩行器使用へと改善されたケースもある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄や散歩で腸運動に働きかけると共に、1日1000ccの水分摂取、腸に良い食物の摂取を心掛けている。必要に応じて医師の指示を受け、排便コントロールを行なっている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>出来るだけ希望に合わせて入浴して頂けるよう対応している。足浴、手浴、清拭、ドライシャンプー等の工夫も実行している。</p>	<p>各フロアーに家庭用の浴室があり、一階にはリフト浴が設置されている。概ね週2回の入浴で、身体状況や意向に合わせてながら柔軟な対応で支援している。足浴や手浴なども、清拭と合わせて適宜行い、清潔が保たれるよう配慮がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>ご本人の生活習慣に応じて、休息を取り入れると共に、就寝時間も、ご本人の意向に沿うようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の情報は個々のカルテに保管し、いつでも職員が確認出来るようにしている。薬剤師、医師との連携を図り、副作用の早期発見に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>役割を持ち、生活に張り合いが感じられるような関りを心掛けている。ご本人の嗜好等はセンター方式を用い、把握に努めている。また、散歩やテラスでの外気浴で、気分転換を図っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ご本人の希望に沿って、散歩や買物に行く機会を設けている。</p>	<p>近隣には公園、天満宮ほか、景観に恵まれたスポットもあり、梅や桜など季節に応じて外出を楽しめる憩いの場所となっている。コンビニでコーヒーを飲んだり、外出レクで個別に出かけたり、各々の要望に沿って支援している。今後は、法人の車を活用して、ドライブを楽しむことも視野に入れ、検討している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>基本的には、苑で管理しているが、外出時には、個人で、自力で精算出来るよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望により、電話や手紙のやり取りを支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関先には、利用者様と一緒に作成した季節の飾り付けをしている。リビング内には絵画を飾ることで、落ち着いた雰囲気作りに努めている。また、ぬり絵や書道等、利用者様の作品も展示している。</p>	<p>リビングには対面式のデスクがあり、職員が全体を把握しながら、業務ができるような造りになっていて、お月見のぬり絵等、季節の手作り作品が飾られ、家庭的なスペースとなっている。地域交流スペースやスタッフルームのある3階のベランダは、利用者と共に、家庭菜園が楽しめる等眺めがよく、気分転換の場所となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングにソファを設置したり、利用者様同士でお話していただく為、席の配置を工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>好みの物や馴染みの物をお持ちいただくなど、居室は自由に使って頂いている。</p>	<p>個々の好みや趣味のものを飾り、その人らしく暮らせる工夫があり、自筆の習字や思い出の写真などに囲まれながら、日常生活が過ごせる、落ち着いた居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>お一人おひとりの身体状況により、ご自分の力で動け、また危険回避できるよう、物の配置に配慮している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑廿日市東

作成日 平成28年10月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	利用者様に対する言葉使いが悪い (スタッフの意識の低下)	利用者様に適切な言葉使いで接する	尊敬の気持ちを持って対応 聞き上手になる わかる言葉で話す ペースを合わせ スタッフ間で注意をし合う	3ヶ月
2	38	利用者様の足腰の筋力の低下	歩行訓練を行う	365歩のマーチの曲を流しながら廊下を無理のない程度に歩行する	3ヶ月
3	41	水分の取りにくい方が ある 食事の姿勢が悪く飲み込みの悪い方が ある	水分の確保をする 姿勢を正し食事を取りやすくする	食事前に前かがみの方を含め体操を取り入れる 食事前にお茶をすすめ口腔内をうるおし水分確保につなぐ	3ヶ月
4	39	靴が臭う 水虫の利用者様が2名 出た	靴(上履き)の衛生 水虫感染予防	靴の洗い替えを用意 洗濯表を作り活用する 入浴の足マットは個人別にする	1ヶ月
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。